

East Japan Railway Worker's Union
Fukushima



JR東労組 福島

第 1734 号

(本年度 20 号)

2018年 11月 14日

発行責任者 安田和広

編集責任者 教宣部

仙台地方本部が見解を発出

「真実の声」を許さない仙台地本見解

2018年6月10日「真実の声」がインターネット上にアップされ、翌日には制裁対象者の元中央執行委員から八王子地方本部レールクラブ経由で拡散依頼がされ、仙台地本レールクラブ役員にも届いていることが発覚した。

この問題に対してJR東労組第36回定期大会の中で仙台地方本部からも発言し、中央本部が調査することが組織決定された。その後中央本部は、今日に至るまで八王子地方本部に調査を依頼し、幾度となく報告を求めたが、「連絡が取れない」と一切調査の進展がない状況が続いている。八王子地方本部に対しては、これまでの経過を早急に調査し中央本部に対して報告することを強く要請をする。

「真実の声」では、投稿者が匿名であることをいいことに、数々の嘘を並べ、中央本部を「残留執行部」と罵り、新生JR東労組運動を推し進める中央本部や我々地方本部に対し嘘で塗り固めた批判を投げつけている。この「真実の声」は、12地本が団結し、秋のたたかいで推し進めている組織拡大の弊害となっており、信頼を回復しようとする新生JR東労組運動を破壊する以外の何物でもない。さらに言えば、個人を特定しての誹謗中傷はもはや犯罪行為である。

「真実の声」に掲載された内容は、不特定多数が閲覧できるインターネットにおいて、組織内部でしか知り得ない情報を基に一部を切り取り捏造し、匿名で掲載している。10月11日付の投稿では、『スト権の議論がほとんどされていなかった盛岡や仙台、横浜、そして大宮に臨時大会開催請求させた。』と書かれているが、職場の組合員からは、「仙台でも指名ストの議論をしてきたのにうそが書かれるのは納得いかない」との声がよせられている。

この「真実の声」に悪意を持って携わる者たちを我々は断じて許さない。よって第5回執行委員会は、「真実の声」がJR東労組を破壊する行為であることを確認した。

仙台地方本部は、あらゆる組織破壊行為を許さず、新生JR東労組運動を目指す中央本部を支持し、安全で働きやすい職場をつくり出し、これからも組合員と家族の幸せを実現する為の運動をつくり出す決意である。

2018年11月10日

東日本旅客鉄道労働組合

仙台地方本部執行委員会

**新生JR東労組を目指す本部・地本と共に
福島支部も組織破壊を許さない体制を
組合員の団結強化でつくりあげていきます！**